

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	図書館運営事業	会計名称	一般会計		担当課	社会教育課	
		予算科目	10 款 5 項 3 目	事業番号	4810	所属長名	森田 誠司
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	北岡 康平	
法令根拠等	図書館法 (昭和25年法律第118号) 第10条				実施期間	【開始】	平成 0 年度
総合計画での位置付け	生涯教育都市の創造 生涯にわたり学習できる環境づくり					【終了】	平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	市民が生涯にわたり、学習活動を継続していけるような環境整備を目指す。						
事業の対象	国民	事業の目的		図書館運営をする中で、健全な発達を図り、もって教育と文化の発展に寄与することを目的とする。			
事業の内容 (整備内容)	資料を収集し、一般公衆の利用に供する。分類配列を適切に分類、目録作成、整備し、利用のための相談に応じる。また、関係機関と協力し、自動車文庫の巡回やお話し会、展示会などを主催し、読書活動を推進する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	人員不足への対策として、読書ボランティアへの更なる呼びかけを行う。また、今年度においては、常勤の嘱託館長が配属されたことにより、業務の負担軽減が図られる。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	27 年度実績	28 年度予定	9月末の実績	28 年度実績
直接事業費	33,801	26,291	0	0	0	24,139	年間貸出人数	人	19391	19250	11366	20654
財源内訳												
国庫支出金		0	0	0	0	0						
県支出金		0	0	0	0	0						
地方債		0	0	0	0	0	人口	人	38444	38051	38051	38051
その他		95	0	0	0	133						
一般財源	33,801	26,196	0	0	0	24,006						
職員の人工 (にんく) 数	0.98	0.98				0.98						
1人工当たりの人件費単価	8,042	8,086				8,086						
※ 直接事業費+人件費	41,682	34,215				32,063						
主な実施主体			実施形態 (補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)									
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	5年間の合計		
					25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	125,000		
成果指標	指標	貸出人数/人口	単位	⇒	区分年度	27 年度	28 年度	29 年度	目標 毎 年度			
	指標設定の考え方	人口に対する貸出人数を指標とし、図書館利用者の拡大を目標とする。			目標	0.5	0.5					
	指標で表せない効果	図書館利用満足度・リピート率			実績	0.504	0.536					

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		当初目標であったボランティアによる支援に関しては、毎月数回来館され、整理作業を手伝っていただいております。業務負担の軽減につながっています。新たな課題として、新館建設に伴い、中央公民館の解体による駐車場の不足や、階段通路の取り壊しによる片側入口閉鎖など、来館者に対するサービスの低下が生じた。また、駐車場の不足により、事業の実施や情報発信なども積極的に実施できないのが実情である。												
事業	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	5	合計点が	S	事業成果・工夫した点	来館者が快適に図書館を利用いただけるよう、壁面展示やおすすり図書の展示などの工夫を行った。また、土日の利用が多いことから、月末整理日 (定期休館日) が土日の場合は平日に変更をしたところ、大幅な利用者人数増加につながった。図書館内だけではなく、ウェルビア伊予や、ふたみ読み語り隊など、外部組織と連携をした事業を行い、新たな層の利用者獲得に成功した。				
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	5					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5								
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	4	合計点が	A						
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	5								
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4	合計点が	A	事業の苦勞した点・課題		利用者人数の大幅な増加にはつながったが、分析してみると、近隣地区の方がほとんど (約6割) であり、中山・双海を含む伊予全域の利用は非常に少ない。駐車場不足というハード的な問題は、どうしても回避できないが、各地域へ呼びかけて、図書館に赴かなくてもサービスが利用できる仕組みを模索したいと考えている (現在、双海地域の地域おこし協力隊や公民館主事と連携した取組みは進めている)。				
		コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3						14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D			
		市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3									
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	5	合計点が				S	事業の方向性	■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 図書館は本の貸し借り業務だけではなく、人材育成や課題解決といった人づくり、地域づくりの重要な役割を担う施設であるため。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	5								14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。	5								
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。	5	合計点が	S							
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決になっていない。 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4			14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。	5									
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3	合計点が	A	所属長の課題認識	駐車場が不備となっている新施設建設中に、利用者が図書館離れとならないよう、様々な工夫を凝らすとともに、新施設への期待が膨らむ催しを展開しなければならない。						
	コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4					14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D					
	市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	4										

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。 総合計画の基本施策を推進するに当たり、特に重要な事業と判断したため。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	<p>答申の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設完成後の本の引越しや補充など、図書館業務に関わる方は大変だと思うが、よろしく願いたい気持ちである。 いろいろ計画をされ、特に次世代を担う子どもの利用が進んでおり、素晴らしい取組がされていると評価する。 図書館運営について、本当にいろんな対策を考えていると思った。双海、中山など要望（ニーズ）があるのであれば、対応していかざるを得ないと思う。できればマイナンバーカードを利用されるといいと思う。 ボランティアの人が一緒にやるとか、カウンターの人の意見を採用するとか、職員でない方が一生懸命やっている図書館がよく機能している。よくできているなど思った。あと小学生が図書館に来て何をしているのか、どう過ごしているかを学校を通じて聞いておくと、小学生を呼ぶための方法も考えられると思う。学校と連携して声を集めるとよい。 子どもを集客する企画、本だけでなく講演会や音楽会など、伊予市の文化レベルを上げる努力をしていただきたい。
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄 施設建設に伴う駐車場閉鎖により利用者減を懸念していたが、企画展示や月末整理期間の工夫により利用者は増加した。ボランティアとの連携による事業の工夫、新たな図書館を見据えた取組も進行しており、現状のままとする。
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。	